

年 組 名前：

風林火山

つい先日、この春から一部を除いて全学年で実施されると耳にした。近くの小学校で行われるクラス替え。筆者の子どものころは2年に一度だった▼単学級で、そもそもクラス替えのない学校は多い。一方、複数の学級がある県内の学校では、以前から毎年へ変更する動きがあった。頻度を増やす狙いの一つは、子どもがより多くの人と接し、多様な考え方や、価値観に触れることだとか。教員からは、物事をより多面的に捉える力の育成につなげたいとの声を聞く▼とはいえ、子どもや保護者には複雑な思いがあるだろう。仲の良い友人と離れる寂しさ、新しい人間関係への不安を抱くことが増えるとの懸念は、想像に難くない▼昨年の全国中学生人権作文コンテスト県大会で入賞した生徒の作品の一つに、クラス替え後の苦い記憶がつづられている。生徒は初めてクラス替えがあった小学3年の時、学校で多くの嫌がらせを受けるようになった▼気の持ちようが変わったのは4年の時。新しく変わった担任教諭の「私は友だち皆と仲良くしなさい」とは言いません（後略）」との言葉に「僕は救われた」。先生の言葉によって、人は皆違うことを意識し、苦手な同級生を意識しなくなったという▼学校のみならず、多くの現場で周囲の顔ぶれが変わる春が近い。「同級生みんな一人一人違うんだから、自分と違う人もいて当たり前。生徒がつづった一文を、心に留め置く。（有）

(2025 年 2 月 5 日付 山梨日日新聞 1 面)

問1

「クラス替え」を題材にしたコラムです。全国中学生人権作文コンテスト県大会で入賞した生徒の作品で、担任教諭からの言葉で救われたとあります。その言葉を答えてください。

.....

問2

生徒は、「問1」の言葉から、どのように変わっていききましたか。

.....

問3

あなたは「クラス替え」について、どのように考えますか。その理由も答えてください。

考え:

.....

理由:

.....

.....